

# 旬じょうはん

情勢判断学会 東京本部  
会員向けニューズレター  
発行人 古川 彰久  
事務局 〒252-0321 神奈川県  
相模原市南区相模台 1-23-9  
Tel.&Fax.  
042-748-8240  
<http://www.jouhan.com>  
E-mail: info@iki2life.com

## 7 月例会ご案内

7 月 13 日 木曜日 18:30 ~ 21:00

テーマ : 「カエルの楽園」百田尚樹著

場所 : 港区商工会館

参加費 : 1000 円

担当 : 石田 金次郎

「カエルの楽園」は、寓話です。「カエルを信じろ」、「カエルと争うな」、「争うための力を持つな」という不思議な「三戒」を守って平和に暮らしているツチガエルの国（ナバージュ）が、凶暴なウシガエルたちに滅亡されるという寓話である。ソクラテスというアマガエルを客観的な存在として登場させて、物語を展開している本です。

作者・百田尚樹は、1956 年大阪生まれで、2006 年に『永遠の 0』を発表し、小説家としてデビューし、文筆業をする傍ら、NHK の経営委員を一期勤めました。ウィキペディアによれば、自身のスタンスは、「政治的思想などは何もないし、哲学もない、ただ、一介の愛国者にすぎない」と言っている。が、政治主張を述べることもあり、話題になることが多く、百田と国家観が異なる者には百田の思想と共に作品までも批判されることあるが、百田と国家観が異なる者の中にも作品に関しては評価している者もいると評される人物である、と記している。

「カエルの楽園」の寓話の対象は、「中国の脅威」であり、百田の中国人に対する鑑識眼・鋭い洞察力で中国に対する一つの見方を提供している。日本列島の近隣に中国・韓国があり、「今の政治とマスコミの報道を続けると、こんな結果になりかねませんよ」という一種の警告のつもりで書いたと述べている。

中国は、帝国主義列強のアヘン戦争などの植民地分割・日中戦争の国土荒廃の中から、1949 年共産党政権が生まれ、試行錯誤しながら 1978 年の鄧小平が経済の改革開放に舵を切り急速に発展した。現在世界第二の経済大国になってきており、独自の世界戦略を推し進めている。2050 年頃にはアメリカにとって代わり世界第一の経済大国が予測されている。

一方、南シナ海の領有権を問題に関してフィリピンが中国を相手取って起こしたオランダハーグの国際司法裁判所の判決も一片の紙切れと言って相手にせずと決め込み、これまでの国際常識も一顧だにせずとの姿勢を表明しており、アメリカや国際社会も重大な脅威と受け止めてきている。

こういった、共産党一党独裁の中国の台頭という国際情勢の中で、日本人の持っている危機感が極めて乏しいのではないかと。自由・民主主義を掲げるアメリカと共産党の一党独裁国家中国とは全く違うんだぞ。戦後今まで戦争せずに平和裏にすることができたのはなぜなのか。話し合いで解決できるという善良な態度・対応は有効なのか。準備すべきはなになのか。大切なことは日本人全体が危機感を持ち対応していく必要があると、寓話の形をとって主張している。

なお、百田尚樹と石平の対談本「カエルの楽園」が地獄と化す日（飛鳥新社出版）は、中国から日本に帰化された石平の持っている中国観がリアリティを持って迫ってくる内容で一読の価値があると思います。

# 5月例会報告

5月11日 木曜日 18:30 ~ 21:00

テーマ : 今後の展開について

場所 : 港区商工会館

担当 : 参加者による討議

参加者:平井兵治、石田金次郎、飯田豊、古川元晴、古川彰久 5名  
各人から活発なご意見が出された。

以下に要約いたします。

1. 我が国を取り巻く世界各国の情勢が大きく変化してきている。

- (1) 英国のEU離脱
- (2) 米国トランプ大統領の就任と独自政策の展開
- (3) フランスに最年少大統領の誕生
- (4) 北朝鮮の核開発への対応
- (5) 韓国に北との融和を目指す新大統領の誕生

2. 世界情勢の変化に対して、我が国としての対応が企業を含め問題があるように思われる。

## (1) 東芝問題

東芝が巨額の赤字を抱え、その存立さえ危ぶまれています。

この東芝が赤字になっている大きな原因は、東芝が原子力発電の発展を目指し買収したアメリカの原子力発電メーカーである「ウェスチングハウス・エレクトリック」が巨額の損失を出したことによります。

原子力開発は国家もかかわる重要事項と考えられますので、この問題の背後には、国際的な思惑の違いがあるのかと思います。

## (2) 経済問題

戦後急速に発展してきた日本経済ですが、近年かつての勢いがなくなっています。

日本の賃金水準が高くなったことから、日本の企業が海外の安い労働力を求めて海外に進出しておりますが、国際環境の変化に対応できずに、必ずしもうまくいっていないようです。

## (3) 情報処理

近年、スマホが急速に普及し、スマホで簡単に情報収集が可能となり、便利にはなったが、思考方法に戦術思考が失われてきているように思われる。

## (4) 教育問題

日本では特に初等教育で、「読み」、「書き」、「そろばん」といわれており、外国語教育でも文法が重視される傾向があるが、外国人と話をしようとしたらばまず聞いて相手を理解し、コミュニケーションを取れるようにすることです。理屈よりも実践が重要であります。

## 3. 情判会としての対応

このような情勢の中で、今後の定例会でどのようなテーマでどのように展開していくのが良いのか。

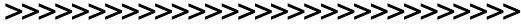
- (1) 城野先生の著書の輪読としては「日本的常識の診断学」を取り上げることも考えられる。
- (2) 問題が複雑化してきているので、あるテーマを取り上げたら、そのテーマに関して事前にお互いに調べておいて、その上で討議するのが良いのではないかと。例えば日本の文化について論じるとしたら、百田尚樹の「カエルの楽園」を各自事前に読んでおいて論議を進める方法が良いのではないかと。
- (3) 6月の定例会は既に篠原氏にお願いしていますので、7月の定例会で上記(2)項の内容を取り上げるとして具体的にどのように進めるか石田氏に提示して頂くこととする。

# 例会予定

2017年  
8月は夏休みとします。

9月14日 木曜日 18:30 ~ 21:00  
テーマ : 未定  
場所 : 港区商工会館  
担当 : 未定

開催場所 : 港区商工会館



- ※ 会誌発送は、E-mail です。
- ※ 年会費はありません。
- ※ 「じょうはん」 発送のお申込は、  
E-mail : [info@iki2life.com](mailto:info@iki2life.com)  
まで、Mail でご連絡下さい。
- ※ 興味のある方にも積極的に転送してあげて下さい。
- ※ ホームページもご確認ください。  
<http://www.jouhan.com>



編集後記  
5月例会での話し合いにより、石田氏が提案された、「問題が複雑化してきているので、あるテーマを取り上げたら、そのテーマに関して事前にお互いに調べておいて、その上で討議するのが良いのではないか。」ということで、今回は出来るだけ百田尚樹の「カエルの楽園」を各自事前に読んでおいていただき、論議を進めることにいたします。  
皆様の積極的な参画を期待申し上げます。(古川)

## 港区商工会館へのご案内地図



東京都港区海岸 1-4-28 TEL03-3433-0862  
ゆりかもめ竹芝駅より徒歩6分、  
JR浜松町駅北口から徒歩およそ7分、  
都営地下鉄浅草線・大江戸線大門駅B2出口からおよそ徒歩10分